「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所　〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18　FAX0282-22-3757
電話連絡先0282-22-7079(増田)
Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp　ＨＰ：太平山麓九条の会で検索

１４０号
２０１９年１月２５日発行

新春 スタンディング

みんなの力で９条守ろう！

１月９日、栃木市役所前に新春スタンディング「憲法９条守ろう！」と、市民が集まりました。

日本国民３１０万人、アジアの２０００万人以上の命を奪い、その悲しみの上に、「二度と戦争しない」と誓った日本国憲法です。この平和憲法があったから、戦後ずっと、日本は「戦争をしない国」を続けてきました。ところが、安保法制（戦争法）、共謀罪法を強行した安倍首相は、９条を変えて「戦争する国」をめざしています。

安倍首相は、「２０２０年を新しい憲法を施行する年にしたい」と期限を切った「改憲」を宣言しています。憲法尊重擁護義務を負う総理大臣の改憲発言は、憲法違反であり、許されません。

「安倍９条改憲ＮＯ！　戦争への道ストップ！　辺野古の新基地建設ＮＯ！」と、引き続き声を上げていきましょう。

…おしらせ…

•スタンディング
2月9日(土)
栃木市役所前
2月19日(火)
ケーズデンキ大平交差前
※午後3時～約30分間

•とちぎ市民ネット集会
3月16日(土)午後1時半～
大平公民館
DVD(憲法と自衛隊)視聴他

•NHKプロデューサー
塩田純氏　講演会
4月13日(土)午後1時半～
日本国憲法はこうして生まれた～自由民権から新憲法へ～

「憲法を詩(うた)おう」コンテストによる 大賞作品を紹介！

日本弁護士連合会が、日本国憲法施行７０周年を記念し、憲法への思いを綴った「憲法詩（ポエム）」を募集する「憲法を詩おう♪コンテスト」が行なわれました。全３９０作品の中から、小学生以下の部（金賞・大賞）の作品をご紹介します。（次回は、大人の部を紹介します）

わたしはせんそうをしらない
おかあさんもしらない
おばあちゃんもしらない
でも、ひいおばあちゃんはしっている
えきでへいたいさんを
みおくったかえり、
ひこうきがとんできて
「きじゅうそうしゃ」で
やられそうになったって
はしってはしってはしって
ようやくにげたって
ひいおばあちゃんがいきたから
おばあちゃんがうまれ、
おかあさんがうまれ、
そしてわたしがうまれた
へいわをまもるけんぽう
いのちをつなぐけんぽう
わたしがおおきくなっても
このままのけんぽうであること、
それがわたしのねがい

尾池　ひかりさん（茨城県・７歳）

成人に平和のメッセージ・「豆本」を手渡しました

１月１３日（日）は、栃木市の成人式でした。太平山麓９条の会では、成人に平和のメッセージ・「豆本」を、お祝いを込めて成人に手渡そうと、準備を進めてきました。

成人式当日は快晴。成人式会場は、栃木・大平・岩舟・藤岡・都賀・西方文化会館の６か所に別れています。

それぞれの会場には、朝早くから賛同者などたくさんの方が駆けつけ、豆本撒きを手伝ってくれました。どの会場も、「おめでとうございます」、と声をかけながら豆本を手渡すと、ほとんどの成人が「ありがとうございます」と気持ちよく受け取ってくれました。中にはすぐ開いてみている成人もあり、配っている方もうれしくなりました。

ドイツと日本の教育
＝留学から見えてくるもの＝

クラヴェール浩子　記

この秋、娘の一人が日本の中学校に日本語習得のために二ヶ月間留学させてもらいました。そこで娘がとても驚いたのが、校則の多さでした。髪型、靴の色、普段着ていいのは体育着だけ、他学年と校内で話さないこと、自転車小屋で友達を待って一緒に下校しないこと、腕時計はダメ、装飾品や化粧はもちろん一切ダメ。校内のあいさつ運動も含めて、日本は……しなければならないという決まりが異常に多いというのが印象だったそうです。子供達が大人に大きな声で挨拶する姿は結果として気持ちいいものに感じたし、勉強に集中するための決まりなのだろうなと思ったりはしたそうですが、それでも外見から枠をはめていくことは、ドイツの学校ではあまり受けなかった教育だと感じたそうです。

ドイツではどうしてこういうことがないのでしょうか。やはりそこには徹底した個人主義というものと、ナチス時代に行われた統率教育に対するアレルギーというものがあって、多くの人を同じ決まりの中で縛っていくことに対して極端に神経質に反応する体質があるのだと、ドイツ人の夫に聞いたことがあります。

個人主義というのは、心地よいものだけではありません。決まりに縛られるのは窮屈でも、その仲間に入ってさえいれば周りと衝突することも排除されることもなく安心していられるということはあるわけで、決まりがあまりなくて個人個人で考えろという社会では、人と違う行動を選んだ時の責任を取る際の孤独感と戦わなくてはなりません。また、個人主義は往往にして自分勝手と履き違えられることが多く、ドイツでも最近の子ども達の様子を見ていると困ったものだと思う場面も多々あります。

それでも、どんな格好をしてもよく、大人への態度をこういうものだと強要されることもないドイツの学校の子ども達を見ていると、自分で考える力というものは養われていくのだと感じます。学年が上がっていくにつれて個性もはっきりしてきて、それぞれが進みたい道を(大学という値観から離れたところで)自信を持って見つけていく様ですし、パンクの様な格好をしていた生徒がある時染めていた髪をばさっと切って登校してきてスッキリした顔で「もう十分やったからいいんだ」と言っているのを見たりすると、その子どもが自分の力で勝ち取っていった強さを感じ、清々しい思いがします。

子どもに枠をはめていく教育と、枠をはめない教育。枠をはめたほうが何かと教育はしやすいのではないかと思います。枠をはめないということは、いろんな子どものいろんな反応に対処しつつ、自分の教育観や価値観を日々自問し生涯向上し続ける努力をしなくてはなりませんから大変です。でも、人間本来の力を信じているのはどっちなのかなあ、と興味深く思います。

いずれにせよ、学校教育は家庭からの理解や期待、どの様な社会がそれを見守っているか、ということに大きく左右された中で展開されることですから、そこに、日本らしさとドイツらしさが見えてくることは当たり前なのだと思いました。